

豆菓子のブランド化を図り、自ら海外販路を切り開く企業 (池田食品 株式会社)

会社概要(平成24年10月現在)

- 所在地:北海道札幌市白石区中央1条3-3-39
- 代表者:池田 光司
- 資本金:2,000万円
- 売上高:11億1,000万円
- 従業員数:39名
- URL:<http://www.ikedac.co.jp/>

①事業概要

<豆菓子製造・販売>

同社は、昭和23年に乾物問屋(有)松屋池田商店として創業の老舗菓子メーカーで、「豆の池田食品」として地元業界での知名度が高い。

創業以来、産地にこだわり、安全にこだわり、味にこだわり続けた職人の思いがぎゅっと詰まった「創作豆」、100%北海道じゃがいもでん粉を使用した「タマゴボーロ」、お豆屋さんのちょっと和風な「チョコレート」のほか昔から馴染みのある味の「かりんとう」などこれからも、子どもからから年配の方まで、幅広く親しんでもらえる、おいしくうれしい商品を提供し、評価を得ている。

②海外展開概要

<香港への販路拡大>

同社は、平成19年の札幌市等が主催するイベントに参加したことがきっかけとなり、以後、機会を捉えて海外企業との商談に取り組んできた結果、現在、香港のスーパーへ継続的に商品輸出を行っている。道内の食品企業(中小企業)で、商社を介さず、自ら輸出している企業が少ない中で、道産食品の海外市場での販路を自ら切り開いている。

また、同社では、自社パッケージに鬼のマークを入れ、「鬼のマークの豆屋さん」というブランド展開を図っている。

最近では海外販売に当たり「池田豆」のブランド展開を提案し、販路拡大に繋げている。

③取組の重点(活用した支援策を含む)

海外展開をするうえで、相手企業との信頼関係は大切と考え、展示会・商談会等を含め、繰り返し現地へ赴き、人的ネットワークを構築。

ジェットロから輸出有望案件として、契約実務等のサポートを受けている。

また、海外と商談を行うにあたっては、語学や商品知識を持った営業人材の育成など、自社のレベルアップが必要であると考え、当初こそ社長自らが対応してきたが、商談を繰り返す中で社内体制を確立し、現在に至っている。同社の海外展開は、自社のみでなし得るのではなく、地域が一体となった取組の中で販路拡大が具現化したもの。地元の自治体や行政、支援機関、商工会議所等各方面の後押しがあつて初めて、第一歩を踏み出すことが可能となったものであり、その後、出展した企業グループ同士が切磋琢磨しあうことで今日の販路拡大につながっていると考えている。

④今後の事業展開について

今後、アジア全域への取引拡大に向けて、香港企業を中核として中国本土をはじめ、タイ、マレーシア等の近隣諸国にも積極的に取り組んでゆく予定。



現在海外で展開中の「池田豆」ブランドと香港商談会での様子(平成24年8月)



(平成24年10月現在)

データ出所:北海道経済産業局